

No. 1181

夏の終りに

195 井

— 山 梨・石 和 —

甲府盆地の中央を流れる笛吹川、この川の流が少しつめたく感じはじめる頃、山梨はぶどうの季節を迎える。どこへ行っても見られるぶどう狩りの風景。温泉郷として名高い石和は謡曲、「鶺鴒」の伝説で知られる鶺鴒発祥の地。鶺鴒山遠妙寺には鶺鴒勸作に関するものが今も数多く残っている。今年の夏30年ぶりに復活した笛吹川の鶺鴒。5メートル程の綱で結ばれた鶺鴒と鶺鴒匠が気持を一つにして魚を追う。

首の根元を綱で結ばれているため、魚を最後までのみこめず、約30センチの首に魚がたまる。この魚を吐き出させる。夏の風物詩、鶺鴒が終るころ、笛吹川の水は一層冷さを増してゆく。

揺れる政局

285 乙

政府自民党の政権抗争は三木・反三木派の対立が激化し、氾濫の様相を見せてきた。

河野洋平、山口敏夫議員ら若手6人の議員は自民党に中曽根幹事長を訪ね、離党届けを提出、新自由クラブを結成した。

河野氏「いまの自民党は存在価値がない従って我々は離党を決意した」。

ロッキード汚職はついに政府高官に及び、田中前首相の逮捕につづき、元運輸大臣橋本登美三郎元政務次官佐藤孝行と捜査の輪が拡げられた。

8月24日の自民党両院議員総会を機に政権抗争は激しさを増し、党五役は事態收拾に苦慮、局面打開策として、執行部調整案を作成、これを中曽根幹事長が首相に手渡し、協議した。

三木首相はこの收拾案をもとに再度福田副総理大平大蔵大臣を官邸に招き、協力を求めた。

会談のあと、両氏は自民党本部で会見し、

福田副総理は「これからは党内一致団結していかなければいけないという認識で一致した」と語った。

しかし船田中、保利茂氏を中心とした挙党体制確立協議会はこれに強く反撥、福田、大平氏に事情を聞くと共に、今後も議員総会での党議を進めて行くことを確認した。

自民党は党史始まって以来の危機に直面した。8月31日の総務会も三木、反三木派の間で大激論がかわされ、国民不在のまま政権抗争はどこまでもくり拡げられて行く。